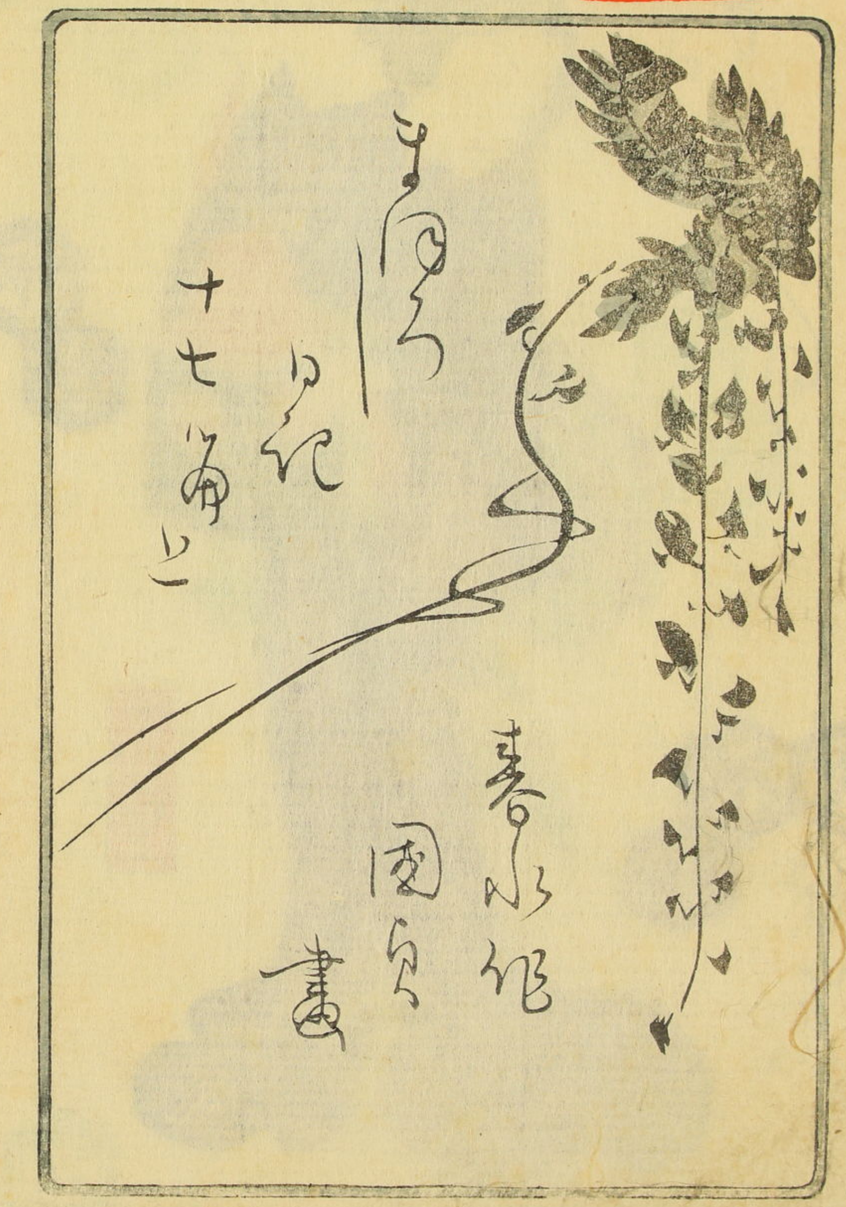
へ 13
3702
15

門へ13
號3702
巻15

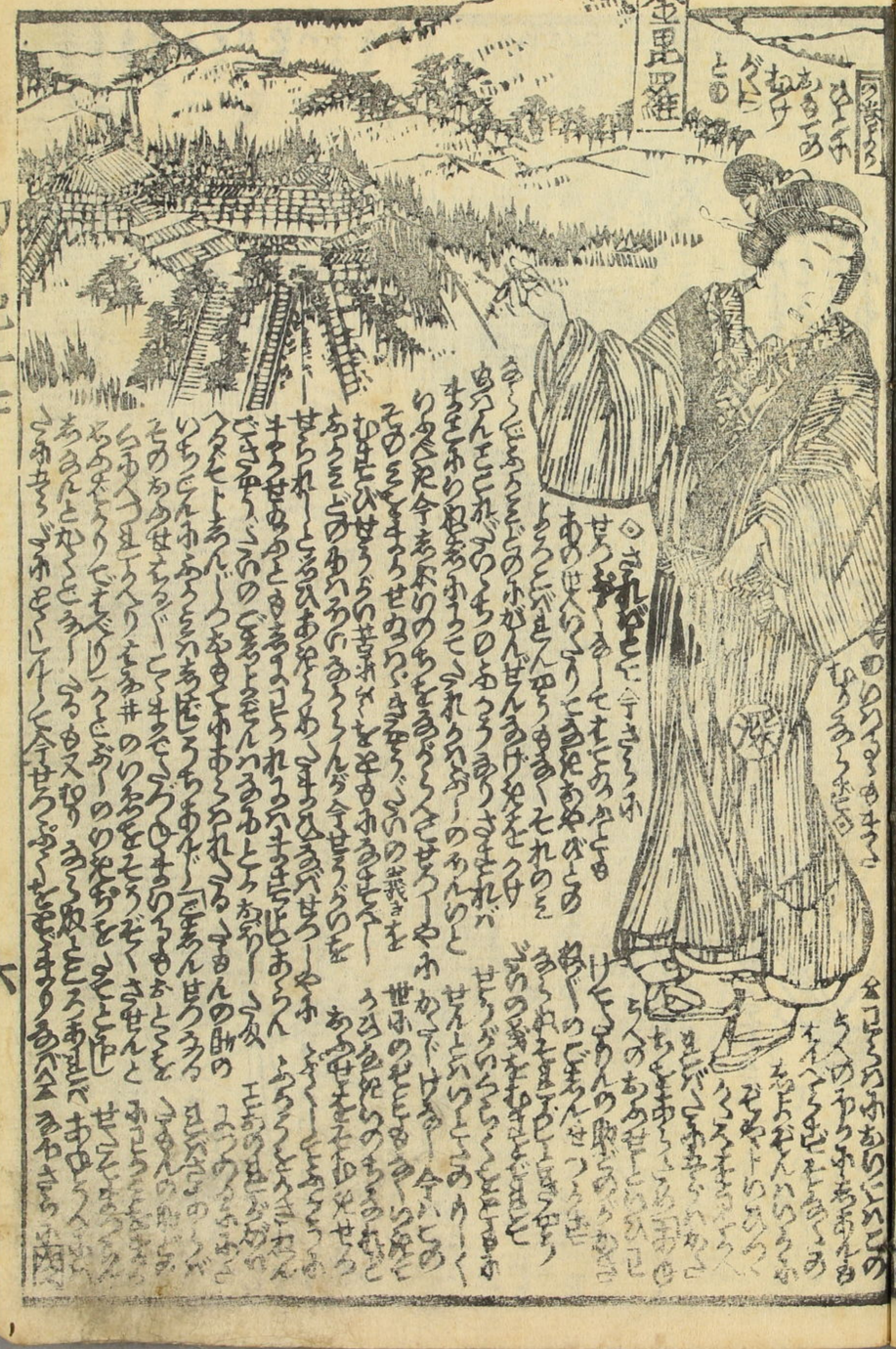


昨日とも今日とも暮しなき川流もとく早き浮世とも。
ひゆ〜へ人の秀吟ゆ〜流行變化の速るを連ね〜
詠歌るべ〜然び奇を好む人心。夫ゞ中ゆも別てるべ。
目前の變をもひとも。斯る草紙の類るまゝ。
所謂怪力乱神い聖も言ハぶと宜へど。時と〜に綴り
ものゝ〜の鳴物ゆく。幕を切る場も勘るべ。
作る中ゆ這冊子いらさる基く所あるを筆ゆ寫せ〜
薄俤も憶へゞよ〜あた遊をあく〜只幻の所爲ゆ有るべ。

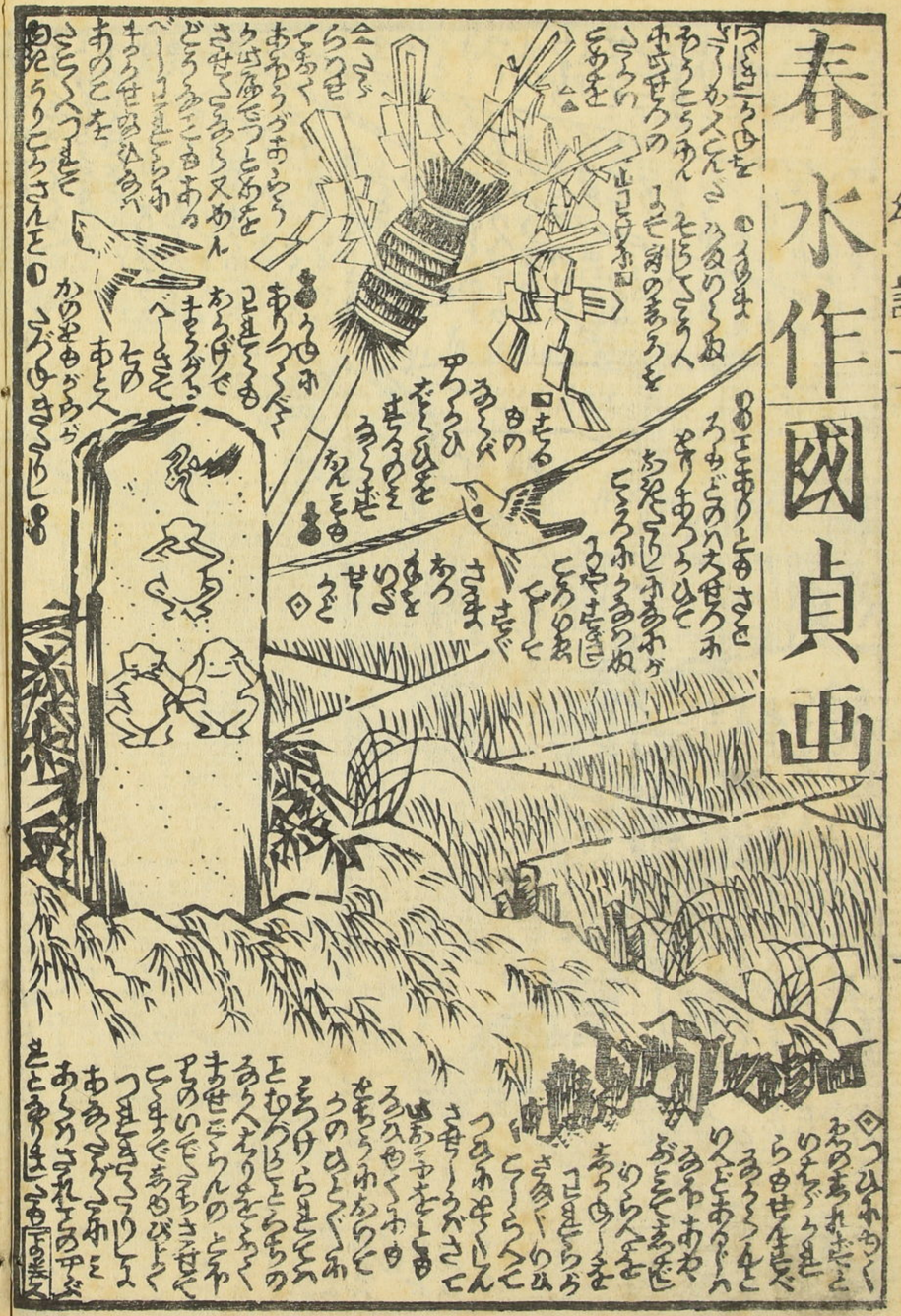
丁卯新春

爲永春水記

山岐
喜藤名聞基方
女房濡葉



春水作　國貞画



本家
實母散
中橋南傳馬町一丁目東ゝ
千葉堂孝輔製

鼠祠通夜譚

四編より
柳亭種彦作
梅蝶樓國貞画

八編より出板仕り

厚化粧萬年嶋田

初篇より追々出板
爲永春水作
梅蝶樓國貞画

辰春粥たん

這い世ゐ昔く沙汰せるゝ姐己阿百が傳ゆ〜て是ゐ和尚奥の惡霊
寅縁芦田の家ゐ仇做んとせ爰ゐ忠臣孝女あり〜て渠が毒手ゐ苦〜
あどせる義まゐ〜て花かゝる冒く理の法う〜草奴紙ゐあん